

多職種連携

多職種連携演習 (看護学科)

[講義・演習] 第3学年 前期 選択
1単位

《担当者名》 本家寿洋 (リハ) honke@hoku-iryo-u.ac.jp ○宮地普子 (看) miyajih@hoku-iryo-u.ac.jp 明野伸次 (看) 内ヶ島伸也 (看) 若濱奈々子 (看) 巻康弘 (福) 近藤尚也 (福) 鈴木和 (福) 鈴木真人 (福) 武田涼子 (リハ) 若松千裕 (リハ) 澤田篤史 (リハ) 大須田祐亮 (リハ) 佐藤一成 (リハ) 用田歩 (リハ) 鎌田樹寛 (リハ) 坂上哲可 (リハ) 柳田早織 (リハ) 齋藤隆司 (リハ) 飯泉智子 (リハ) 鈴木瑞恵 (リハ) (科目主担当 ○学科主担当)

【概要】

医学的な視点のみならず、対象者の心理的・社会的な視点にも配慮した医療が求められる中でチーム医療は必須の手段であり、より良いサービスを実践するためには多職種との有機的な連携と協業は欠かせない。本講義では、専門職種間の有機的な連携と協業についての基礎知識や理論、連携のためのマネジメントの実践についてそれぞれの専門的な立場から考察し、多職種連携が果たす役割や機能について学ぶ。また、模擬患者事例に基づく学部学科をこえたグループワークとリフレクションにより、多職種連携に必要なコミュニケーションやディスカッションの実践力を発揮するための知識・技術・態度を身につける。

【学修目標】

医療や福祉の現場で他の専門職種と連携協業していくために、必要な知識や態度、コミュニケーション技術を身につける。

1. 多職種連携において対象者を中心とした視点が持てる。
2. 多職種連携における各専門職の教育背景が異なることを配慮して他学科の学生と意見交換ができる。
3. 演習を通してグループ内で信頼関係を築くことができる。
4. 多職種連携におけるそれぞれの専門職の役割を理解し、説明できる。
5. 演習での議論を円滑に進めるために協力することができる。
6. 自分自身のふるまいを省察し、考えや価値観を再構築できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1 }	オリエンテーション	授業の進め方、課題の提出方法などについて理解する。アイスブレイキングを通してグループメンバーを理解する。課題：リフレクションシート	全担当教員
2	オリエンテーション (Aクラス)	授業の進め方、課題の提出方法などについて理解する。アイスブレイキングを通してグループメンバーを理解する。課題：リフレクションシート	看護学科：宮地
	オリエンテーション (Bクラス)	授業の進め方、課題の提出方法などについて理解する。アイスブレイキングを通してグループメンバーを理解する。課題：リフレクションシート	看護学科：明野
	オリエンテーション (Cクラス)	授業の進め方、課題の提出方法などについて理解する。アイスブレイキングを通してグループメンバーを理解する。課題：リフレクションシート	看護学科：内ヶ島
	オリエンテーション (Dクラス)	授業の進め方、課題の提出方法などについて理解する。アイスブレイキングを通してグループメンバーを理解する。課題：リフレクションシート	看護学科：若濱
3	多職種連携の必要性とたち・多職種連携に関わる各職種の役割	多職種連携が求められる背景、その重要性および病院や地域において多職種連携に関わる各職種の役割について学ぶ。課題：小テスト	オンデマンド
4	多職種連携に必要な技術1	カンファレンス等、多職種で行う情報交換、意思決定の方法とディスカッションを円滑に進めていくためのファシリテーターの役割について学ぶ。課題：小テスト	オンデマンド
5	多職種連携に必要な技術2・3	多職種が連携することで生じるコンフリクトに対するマネジメント方法および保健、医療、福祉の共通言語であるICFについて理解し、ICFにしたがって情報を整理する方法について学ぶ。課題：小テスト	オンデマンド
6	多職種連携演習 (Aクラス)	オンデマンド授業で学んだ多職種連携に必要な技術を用いた演出を通じて円滑な議論の進め方を学ぶ。	看護学科：宮地

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
7		課題：リフレクションシート	
	多職種連携演習 (Bクラス)	オンデマンド授業で学んだ多職種連携に必要な技術を用いた演出を通じて円滑な議論の進め方を学ぶ。 課題：リフレクションシート	看護学科：明野
	多職種連携演習 (Cクラス)	オンデマンド授業で学んだ多職種連携に必要な技術を用いた演出を通じて円滑な議論の進め方を学ぶ。 課題：リフレクションシート	看護学科：内ヶ島
	多職種連携演習 (Dクラス)	オンデマンド授業で学んだ多職種連携に必要な技術を用いた演出を通じて円滑な議論の進め方を学ぶ。 課題：リフレクションシート	看護学科：若濱
8 9	多職種連携演習 (Aクラス)	複雑化したニーズを抱える模擬事例をもとに、課題となる点や介入方法を検討する。また、次回から開始する脳卒中発症後1カ月でリハビリテーション病院に転院し、6か月後の退院を目指した模擬事例の情報をグループメンバーで共有する。 課題：リフレクションシート	看護学科：宮地
	多職種連携演習 (Bクラス)	複雑化したニーズを抱える模擬事例をもとに、課題となる点や介入方法を検討する。また、次回から開始する脳卒中発症後1カ月でリハビリテーション病院に転院し、6か月後の退院を目指した模擬事例の情報をグループメンバーで共有する。 課題：リフレクションシート	看護学科：明野
	多職種連携演習 (Cクラス)	複雑化したニーズを抱える模擬事例をもとに、課題となる点や介入方法を検討する。また、次回から開始する脳卒中発症後1カ月でリハビリテーション病院に転院し、6か月後の退院を目指した模擬事例の情報をグループメンバーで共有する。 課題：リフレクションシート	看護学科：内ヶ島
	多職種連携演習 (Dクラス)	複雑化したニーズを抱える模擬事例をもとに、課題となる点や介入方法を検討する。また、次回から開始する脳卒中発症後1カ月でリハビリテーション病院に転院し、6か月後の退院を目指した模擬事例の情報をグループメンバーで共有する。 課題：リフレクションシート	看護学科：若濱
10 11	多職種連携演習	脳卒中発症後1カ月でリハビリテーション病院に転院し6か月後の退院を目指した模擬事例を使用して、退院の方向性や2か月後までの各職種の役割分担をグループメンバーで検討する。 課題：リフレクションシート	全担当教員 特別講師：星野由利子、 上田学、橋本恭尚
	多職種連携演習 (Aクラス)	脳卒中発症後1カ月でリハビリテーション病院に転院し6か月後の退院を目指した模擬事例を使用して、退院の方向性や2か月後までの各職種の役割分担をグループメンバーで検討する。 課題：リフレクションシート	看護学科：宮地
	多職種連携演習 (Bクラス)	脳卒中発症後1カ月でリハビリテーション病院に転院し6か月後の退院を目指した模擬事例を使用して、退院の方向性や2か月後までの各職種の役割分担をグループメンバーで検討する。 課題：リフレクションシート	看護学科：明野
	多職種連携演習 (Cクラス)	脳卒中発症後1カ月でリハビリテーション病院に転院し6か月後の退院を目指した模擬事例を使用して、退院の方向性や2か月後までの各職種の役割分担をグループメンバーで検討する。 課題：リフレクションシート	看護学科：内ヶ島
	多職種連携演習 (Dクラス)	脳卒中発症後1カ月でリハビリテーション病院に転院	看護学科：若濱

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		し6か月後の退院を目指した模擬事例を使用して、退院の方向性や2か月後までの各職種の役割分担をグループメンバーで検討する。 課題：リフレクションシート	
12)	多職種連携演習	リハビリテーション病棟で2か月が経過した模擬事例について、5か月後までの解決すべき課題と目標設定をグループメンバーで検討する。 課題：リフレクションシート	全担当教員 特別講師：星野由利子、 上田学、橋本恭尚
13	多職種連携演習 (Aクラス)	リハビリテーション病棟で2か月が経過した模擬事例について、5か月後までの解決すべき課題と目標設定をグループメンバーで検討する。 課題：リフレクションシート	看護学科：宮地
	多職種連携演習 (Bクラス)	リハビリテーション病棟で2か月が経過した模擬事例について、5か月後までの解決すべき課題と目標設定をグループメンバーで検討する。 課題：リフレクションシート	看護学科：明野
	多職種連携演習 (Cクラス)	リハビリテーション病棟で2か月が経過した模擬事例について、5か月後までの解決すべき課題と目標設定をグループメンバーで検討する。 課題：リフレクションシート	看護学科：内ヶ島
	多職種連携演習 (Dクラス)	リハビリテーション病棟で2か月が経過した模擬事例について、5か月後までの解決すべき課題と目標をグループメンバーで検討する。 課題：リフレクションシート	看護学科：若濱
14)	多職種連携演習	リハビリテーション病棟で5か月が経過した模擬事例について、退院後の解決すべき課題と目標設定をグループメンバーで検討する。 課題：リフレクションシート	全担当教員 特別講師：星野由利子、 上田学、橋本恭尚
15	多職種連携演習 (Aクラス)	リハビリテーション病棟で5か月が経過した模擬事例について、退院後の解決すべき課題と目標設定をグループメンバーで検討する。 課題：リフレクションシート	看護学科：宮地
	多職種連携演習 (Bクラス)	リハビリテーション病棟で5か月が経過した模擬事例について、退院後の解決すべき課題と目標設定をグループメンバーで検討する。 課題：リフレクションシート	看護学科：明野
	多職種連携演習 (Cクラス)	リハビリテーション病棟で5か月が経過した模擬事例について、退院後の解決すべき課題と目標設定をグループメンバーで検討する。 課題：リフレクションシート	看護学科：内ヶ島
	多職種連携演習 (Dクラス)	リハビリテーション病棟で5か月が経過した模擬事例について、退院後の解決すべき課題と目標設定をグループメンバーで検討する。 課題：リフレクションシート	看護学科：若濱

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

小テスト40%、演習後のリフレクションシート60%

【参考書】

篠田道子著 「多職種連携を高めるチームマネジメントの知識とスキル」 医学書院 2011年
埼玉県立大学編 「新しいIPWを学ぶ-利用者中心の保健医療福祉連携」 中央法規出版 2022年

北島政樹著 「医療福祉をつなぐ関連職連携-講義と実習にもとづく学習のすべて」 南江堂 2013年

【備考】

3回分のオンデマンド授業の動画を視聴し、小テストを必ず受けること。

演習 ~ のグループワークは、隔週 2コマ授業を原則とし、開講日は別途指示する。

【学修の準備】

オンデマンド講義や演習の予習は、事前に配付される資料を読むことや、関連する内容の教科書を読んだ上で参加すること（予習30分）。オンデマンド講義後の復習は、数回オンデマンドを視聴して内容を説明できるようにする。また、演習の復習は実施した内容をもとに何を学んだのかを説明できるようにする（復習30分）。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP4：保健・医療・福祉をはじめ、人間に関する様々な領域の人々と連携・協働できる能力を身につけている。

DP2：看護専門職に必要な知識・技術を修得し、健康や生活に関する問題に対して、適切かつ柔軟に判断し解決できる学術的・実践的能力を身につけている。

【実務経験】

宮地普子（看護師）、明野伸次（看護師）、内ヶ島伸也（看護師）、若濱奈々子（看護師）、巻康弘（社会福祉士、認定社会福祉士(医療分野)、介護支援専門員）、近藤尚也（社会福祉士）、鈴木和（精神保健福祉士）、鈴木真人（社会福祉士、精神保健福祉士、看護師）、本家寿洋（作業療法士）、武田涼子（理学療法士）、若松千裕（言語聴覚士）

【実務経験を活かした教育内容】

看護師、社会福祉士、精神保健福祉士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等の実務経験を通じて得た知識・技術・態度等を活用し、実践的な教育を行う。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している